

「葦」第32号発刊によせて

教育委員長

西 浦 真 千 代

平成12年度は「学びを生かそう、実践に」をテーマに取りくみました。講演テーマの「痛みの管理」「看護診断」「看護過誤」「感染予防」は各々臨床でのトピックスともいえると思います。

「痛みの管理」では、術後痛からターミナルケアまで、患者様の苦痛緩和の実践にいかせるようにと学びました。

「看護診断」では、看護診断を取り入れて10年を経過する中で、現状の見直しと更に記録の充実のためへの学びとなりました。GW・ロールプレイを取り入れての講演は、現実的・効果的・新鮮さのあるもので継続研修への希望も多くありました。

「看護過誤」では、医療事故防止にむけて、ヒヤリ・ハット報告の意義、リスクマネージャーの必要性や診療記録の記載について等、今できることは何かを、各々に問われるなかで、看護師としての課題も新たになりました。

「感染予防」としては「医療サービスの視点から考えた院内感染への取り組み」として感染管理認定看護師の役割やCDCガイドラインの紹介をはじめとして、院内感染防止対策の基本について学びました。患者様の生命を守り安全を保障することは、看護の基本であることを再認識できました。どの講演会でも所属の現状の中での質問や意見が活発にあり、今後に示唆を得ることができました。

第5回目を迎えた看護一言大会では、「私の考える看護」として各々の所属での12年度のチームリーダー・サブリーダーの皆様から発表していただきました。発表後のまとめと講演を短期大学部教授の江上芳子先生にお願いしました。参加者からは自分の看護観について考えたり、今後の取り組みについての感想が多くありました。

看護研究発表は、日頃の看護上での工夫や日々の実践での成果のあったもの等22ヵ所より発表されました。今年は発表時間を7分として、主任会の運営のもとで1日での発表会としました。多数の参加者で盛況の中、1日で終了することができました。スライドの作成、発表の工夫等今後の参考になることが多くあり今後の研究意欲と継続の学習の場となりました。

新年にあたっては、出席者多数で看護部長の方針を伺い、13年度の各所属での目標や、各人の行動へとつなげる意義ある時間となりました。

研修会を通しての様々な学びが、「葦」32号として発刊されますことを大変嬉しく思います。生涯教育の場としてますます教育講習会の内容が充実されることを願っています。

最後にこの1年間御協力いただいた皆様方に深く感謝いたします。